

14 タンク・ボックス類の孔あけのポイント

(1) タンクの場合

丸タンクや角タンクで図14-1、図14-3のように底部に全く開口部がない場合はめっきは困難です。開口部があっても、その位置が不適當なときには空気や亜鉛の流出が阻害され、めっき不良や亜鉛の残留が生じます。

図14-2、図14-4のように対角線方向のコーナー部に開口部を設けてください。また、斜めにしたり反転したりしますのでつり手が必要です。

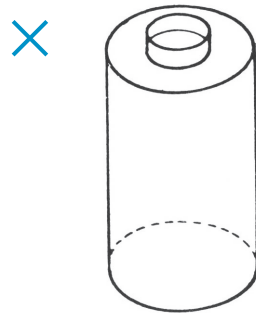


図14-1

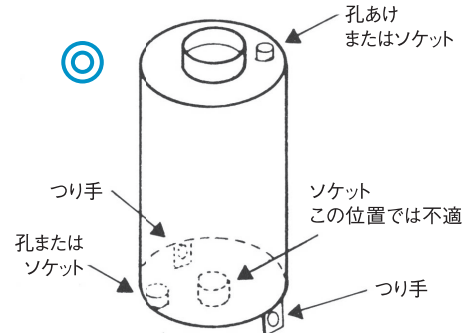


図14-2

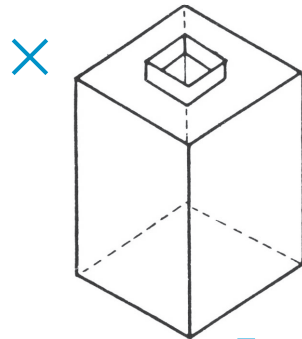


図14-3

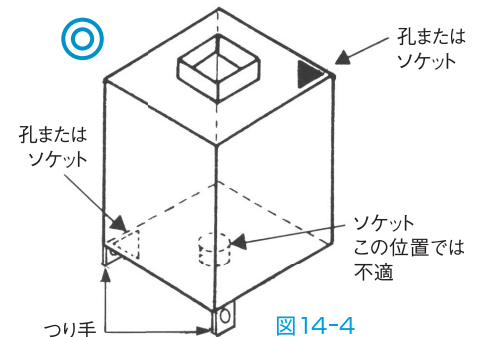


図14-4

〈丸タンクのソケットのつけ方〉

ソケットを取付けた場合、図14-5のように内部にカエリがあると空気、亜鉛が完全に排出されず、めっき不良になったり亜鉛だまりが発生したりします。ソケットは図14-6のように孔あけをするか、図14-7のように、カエリのないようにする必要があります。

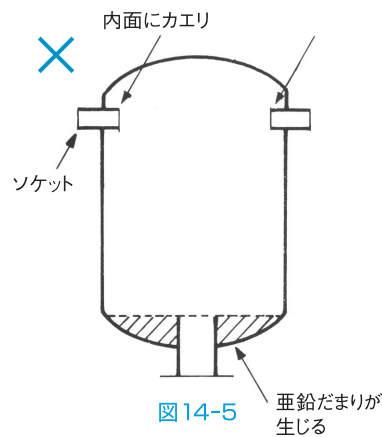


図14-5

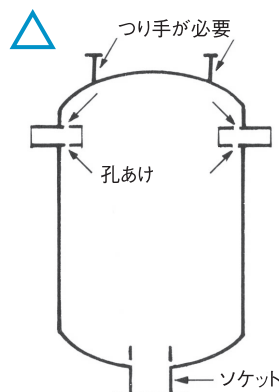


図14-6

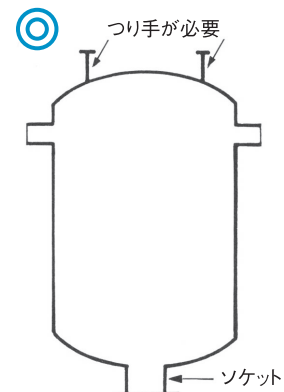


図14-7

〈内部にカエリがある場合〉

図14-8のように開口部内部にカエリ部分がある角タンクの場合は、空気や重鉛の流出が不完全になります。図14-9のような位置に孔あけが必要です。

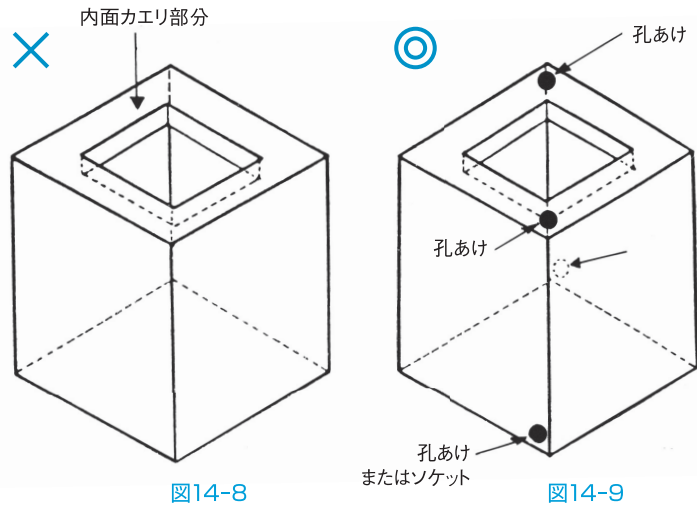


図14-8

図14-9

(2) ボックス類の場合

〈孔は対称位置に必要です〉

図14-11のようにエア抜き、ドレン抜孔は必ず対称位置にあける必要があります。
(a-a'、b-b'、c-c'、d-d'のいずれか1組)

ボックスの大きさにより孔の数、位置、大きさは異なります。また、吊り手等が必要な場合があります。

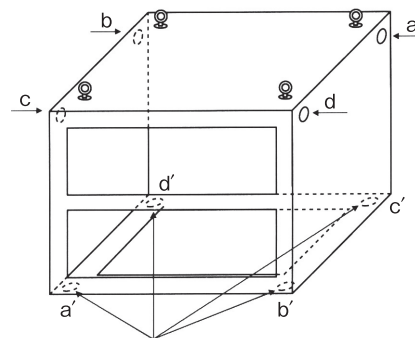


図14-10

必要な孔の大きさと角ボックスの大きさの関係は次のようになります。

■角ボックスのサイズと孔径の目安

$$T = D + H + L$$

T < 1,000mmの場合	10φmm以上
1,000 ≤ T < 1,500mmの場合	15φmm以上
T ≥ 1,500mmの場合	20φmm以上

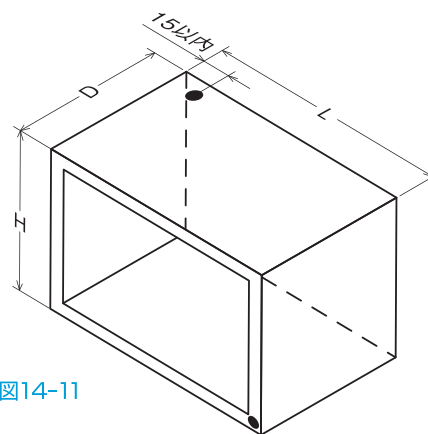


図14-11